

日本語を母語としない子どもたちとともに JSL 日本語指導教育研究会通信

JSL (=Japanese as a second language)

平成30年6月 第1号 No.1

発行者 会長 熊本 修治

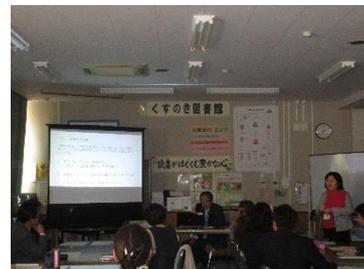
日本語指導教育研究会 事務局

全体研修1 会場校 春吉小学校の取組み

会場校 春吉小学校の取組みの紹介

・春吉小学校 吉永典子先生

春吉小学校では月一度校内で研修会を開いており、日本語教室に対する理解や職員との連携に力を入れており、児童への細やかな配慮をされてきました。日本語指導担当教員だけでなく、学年、学校全体でも適切な声かけや配慮をしていくことの必要性を感じました。



○学年部で連絡会を開いている等大変参考になりました。それぞれの学校でいろいろな問題がありますが、前向きにできることから始めようと思いました。

○それぞれの児童、家庭に応じて十分に配慮し、適切なケアをしているところがとても参考になりました。

全体研修2 年間の日本語指導担当教員の仕事について

・管松小学校 小西としえ先生 城香中学校 日高美和先生

1年間の小学校での仕事と中学校での仕事をそれぞれの先生方に詳しくお話しいただきました。いつ何をしなければならないのかということをとってもわかりやすく説明していただきました。中学校では三者面談の事前英訳などそれぞれの生徒、行事、受験に合わせて適切な配慮がされていました。



○ポートフォリオの作成とそれをクラスの児童に公開するなど、児童の自己肯定感を高める様々な取り組みが素晴らしいと思いました。

○定期テストの対応や開級式、特別入試など中学校ならではの配慮がたくさんあり驚きました。玄界高校保護者見学会の実施など初めて知ったことがたくさんありました。入試に対する配慮が素晴らしいと思いました。

全体研修3 日本語初期指導について

・城浜小学校 岡田美貴先生 春吉中学校 薄里美先生

日本語初期指導の概要と留意する点を実際の日本語指導の授業の流れを通して、指導の中で重要なポイントを多く見せていただきました。模擬授業や演習など考える場面があり、大変勉強になりました。



○つくづく教材研究が必要だと思いました。実際の授業、ワークショップと大変充実した研修内容でした。

○語彙・文型のコントロールをしながら指導を行いたい。自分のスキルを生徒に還元できるようにスキルアップしていく必要がある。